

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況①

団体名	NP0 法人けやの森自然塾	実施日	平成 29 年 7 月～平成 29 年 10 月
代表者	佐藤 朝代	活動場所	阿須運動公園（入間川）
タイトル	水生昆虫探しとカヌー体験教室		
活動目的	自然体験の経験が少なく、友達とコミュニケーションをとることが苦手という子供が増えてきた。“生きいきとした子供の姿”を取り戻し、川の楽しさ、怖さを知り、自然を守る気持ちを養いたい。		
活動内容	①パックテストにて水質調査を行い、支流と本流の水質の違いについて考えた。 ②水生昆虫探しで生物の種類や生息環境や、環境の変化を学んだ。 ③カヌー体験で子供達が協力して準備や後片付けを行い、コミュニケーションを図った。 ④レスキュー体験では、ライフジャケットでの川流れやレスキューロープを使っでの救助体験を行った。  （左）水辺での注意事項：助成金で作成したチラシを持って、参加者に主旨説明をしている様子  入間川の支流の唐沢川にて水生昆虫探し（右）：本流との合流地点から 30m 程の、水の流れが穏やかな溜まりもある箇所、エビ、カワニナ、ヤゴ等の観察を行い、福田教授から水質や水温についての話を聞いた  （左）入間川本流でのカヌー体験：水生昆虫探し、カヌー体験、水質調査、レスキュー体験を順番に行った。天候もよく、入間川での活動に夢中に楽しむ子供達		
活動の成果	入間川流域の飯能市、狭山市、入間市を中心にチラシを配布し参加者を募集したが、所沢市、練馬区、川越市、立川市からも参加があった。河川で遊ぶことに最初は躊躇する子もいたが、次第に川での遊びに夢中になり、五感を使った体験活動ができた。親子での参加も多く、水質の変化について子供も保護者もその数値の大きな違いに驚き、家庭からの排水による影響が大きいことを知り、環境負荷の少ない生活を心がけたいという言葉もあった。		
今後の改善点	駿河台大学との連携の強化をする。駿河台OBとコネクションを得たので来年度は学生のボランティアスタッフをお願いする。 荒川流域ネットワークとの情報共有について今年度実施できなかったため、一斉水質調査の時期とタイミングを合わせて調査だけでも先に実施しておく。		
最終助成決定額	143,320円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況②

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	平成 29 年 7 月～平成 29 年 12 月
代表者	三浦 輝夫	活動場所	坂戸市（高麗川）
タイトル	高麗川の良好な水辺環境の保全活動		
活動目的	「こまがわ市民会議」を中心に市民が一体となって、行政との協働し、高麗川の良好な水辺環境を将来に引き継ぐことを目的として活動している。		
活動内容	坂戸市大字浅羽地内にある浅羽ビオトープを主な活動場所とし、草刈、清掃活動、野鳥・野草等観察会、水路内清掃、水質調査など、7つある分科会ごとに様々な環境保全活動を行っている。浅羽ビオトープ以外にも地域の自治会と連携したゴミ拾いや荒川上流河川事務所と連携したクリーン作戦に参加するなど、高麗川流域の水辺環境の保全活動を行っている。  (左) こまがわニュース発行及び郵送作業 武州・入間川プロジェクト助成による発行と記載。メンバーで発送作業を行った  ベンチの設置 (右) 助成金で購入したベンチと設置用器具を使って作業を行った  (左) さっそく設置したベンチを散歩の方が利用しているところ。		
活動の成果	浅羽ビオトープ内水路の水質調査や浄化活動は自治体と協力して取り組み、地域の清掃活動は自治会と共同作業を行うなど、周囲の団体と連携しより効果的な成果が出せるよう取り組んだ。		
今後の改善点	市内のイベントや市役所での啓発イベント等も有効活用することで、幅広い年代の会員を確保し、地域と一体となった活動を継続していけるよう取り組みを続け、より多くの方が親しみを持てるような活動を行い、こまがわニュースなど通じて紹介して行きたい。		
最終助成決定額	150,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況③

団体名	SUNJOY 南小畔川	実施日	平成 29 年 4 月～平成 29 年 10 月
代表者	安原 昭司	活動場所	川越市（南小畔川）
タイトル	アレチウリ駆除活動と美化・減災活動		
活動目的	在来種を守るための、水害の原因やマムシやハクビシンの棲みかにもなる特定外来種アレチウリの駆除活動と、減災のための河川内雑木処理を行っている。		
活動内容	年 3 回に分けてアレチウリの駆除活動を行った。また、一昨年の夏台風で避難勧告があった当該地区で、流れを妨げる河川内の雑木処理をして減災活動を行った。 年 2 回、兩岸通路の草刈り作業とゴミ拾い美化活動を行ったが、繁茂に追いつけなかった。  (左) 1 回目の駆除活動： まだまだちいさく駆除したアレチウリもこれだけ  2 回目 (右) : 6 月 18 日の駆除活動 駆除したアレチウリはそんなに多くはなかった しかし、この後に猛暑が続き繁茂する  (左) 3 回目 : 9 月 10 日の駆除活動 取りきれないほどの量になってしまった。 わずか道沿い 200～300m でこれだけのアレチウリを駆除した		
活動の成果	今年の台風では水流がスムーズになった。アレチウリ駆除地には葛が元気になり、彼岸花の数が増えた。昨年、除草剤散布が行われていた場所の草刈りを早めに行ったところ、今年は除草剤散布は見られなかった。(犬の散歩コースの安全を守る)		
今後の改善点	アレチウリの発芽時期が研究課題である。また、会員の高齢化で猛暑日の活動をどのようにしていくかが問題となっている。		
最終助成決定額	80,039 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況④

団体名	NP0 法人ジョイライフさやま	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	久保田 慎三郎	活動場所	入間川（狭山市柏原地域入間川左岸）
タイトル	環境の未来と夢・整備による花の鑑賞		
活動目的	自慢できる故郷を将来に向けて残していく、自然の大切さ美しさを実感できる活動を通して環境保全に携わることの素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動している。外来種であるハリエンジュが生い茂る樹林は、休日に市民の散歩道として訪れる人も多く、不法投棄をなくし憩いの公園として整備をしていく。		
活動内容	（１）入間川河川敷柏原左岸整備を月に 1～2 回実施。外来種で繁殖旺盛なハリエンジュ（ニセアカシア）の駆除を行った。 （２）4 月 29 日：整備地有効活用によるアカシアフェスティバルを開催。緑多い河川敷樹林を使い施設の高齢者を招き、澄んだ空気と歌と食事を楽しんだ。 （３）8 月 20 日「筏づくりに挑戦」：環境の未来と夢を子供たちと共にを開催した。環境整備を進めるジョイライフの活動は、埼玉県知事賞として環境優秀賞を受賞した。 （右）外来種であるハリエンジュの伐採。繁殖旺盛でトゲも多く傷口に深く刺さり危険が伴うため、低い枝は切り落とし、幹のトゲは削る作業を、草刈りと共に伐採しながら整備に取り組んでいる。 （左）当初アシヤススキ、ハリエンジュの枝が生い茂り人をも拒む樹林であったが、下草を刈りアカシアフェスティバルを開催した。 （右）8 月 20 日に行った筏づくり。不法投棄を防ぐ活動を通して竹林の整備を行い、竹の子堀体験とその竹材を活用して筏づくり体験を開催している		
活動の成果	当初、訪れる人のマナーの悪さが目立ったが、粗大ごみを捨てる人も少なくなった。アカシアフェスティバルには市長も参加され激励を頂き、地域づくりからまちづくりへ、新たな協力者を募り地域活性に繋げる活動を創出した。 今まで行ってきた雑木竹林、河川敷整備における地域活性につながる環境整備で県知事の環境優秀賞を授与された。		
今後の改善点	明るくなった樹林は訪れる人も増え、次世代につながる活動として有効活用による事業を行い、自然保全のボランティアを育てていきたい。 不法投棄ごみの殆どは持ち帰りだが、粗大ごみや倒木、伐採したハリエンジュの処分とトゲによる傷に困っている。県土木事務所の協力をお願いしているが、まだ協力までこぎつけられていない。		
最終助成決定額	119,280円		

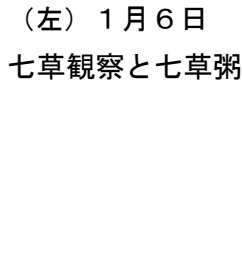
※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑤

団体名	NP0 法人荒川の自然を守る会	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	菅間 宏子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境管理作業		
活動目的	外来種の駆除やアシ刈りを実施するとともに、三ツ沼ビオトープの定点調査・自然観察会を実施し、多くの人々に保全の必要性を理解していただくことを目標にして活動をしている。		
活動内容	今年度は、外来生物の駆除やアシ刈りを実施するとともに、三ツ沼ビオトープの自然観察会の実施や広報活動等を実施し、より多くの人々に保全の必要性を理解していただいた。また自然保護を確実にするために、自然を守ると同時に、育てる活動として地域の在来野草の種子からの育苗と移植活動に力を入れてきた。助成金によって参加者の安全の確保に取り組み、保険を充実することができた。  (左) 5 月 1 4 日観察と竹林整備 生きがい愛の会さん等のご協力を頂いて行った竹林整備  (右) 11 月 3 日洪水後のゴミ拾い 埼玉動物海洋専門学校生指導  (左) 1 月 5 日管理作業 外来のギシギン抜き		
活動の成果	助成金を活用し、外来種駆除・アシ刈り、定点調査を実施。外来種や在来の哺乳類を確認することができた。また、観察会のための道具を充実させ、観察会や広報活動の実施により多くの人に保全の必要性を知ってもらうことができた。 自然保護を確実にするために、自然を守り育てる活動として、地域の在来野草の種子からの育苗と移植をすることができた。		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	140,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑥

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	安孫子 繁子	活動場所	上尾市、川越市、川島町 (三ツ又沼ビオトープ)
タイトル	親子自然塾三ツ又沼と自然塾の開催		
活動目的	荒川の自然環境を学ぶとともに、自然の持つ有用性や、自然の楽しさを体験しながら学ぶことが目的。		
活動内容	設立以来他団体と協力して続けている、三ツ又沼地域の調査・自然保護活動を行った。特に若い親子が自然離れしているという現状に対し、楽しく自然に接する体験を持てるよう、親子で楽しく遊ぶ・学ぶための親子自然塾を開催している。 この他日常の管理作業や、大人も自然を楽しめるような自然観察会等も行っている。  (左) 9月9日 親子自然塾 虫と遊ぼう   (右) 5月14日 浦和高等学園ハチクの花を観察する高校生たち  (左) 1月6日 七草観察と七草粥		
活動の成果	親子自然塾に若い親子の参加があり、高校生のための自然塾では、学校を訪問し事前学習も実施したのち、現地での活動だったため、作業や観察が主体的にすることができていた。1月に行った七草の会では、観察会に時間をかけたので大人も楽しめた。計画日が雨天・台風後等で実施できないものが3回あった。		
今後の改善点	自然見るだけでなく、自然を活用して楽しく体験しながら学べるイベントを考えたい。		
最終助成決定額	110,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑦

団体名	比企の川づくり協議会	実施日	平成 29 年 6 月～平成 29 年 10 月
代表者	渡辺 仁	活動場所	東松山市、嵐山町、小川町、ときがわ町（都幾川、槻川）
タイトル	都幾川魚を増やそうシンポジウム		
活動目的	埼玉県西部の河川の清流は復活したものの、魚は昭和 30 年代、40 年代ほどの生息数には遠く達していない。この事業は都幾川における魚復活を目指す。		
活動内容	魚復活を目的とするシンポジウム、および魚増殖のための河川整備を実施した。 「魚を増やそうシンポジウム」では、魚の生態の専門家、元東京海洋大学助教の丸山隆さんを講師に招き、魚を増やすには川の整備をどのように進めたらよいか等を教えて頂き、参加者の意識の共通化をはかった。 また、ウグイの産卵床の整備の川起こしを実施した。（岩の下に小魚が棲むので、岩を掘り返して川の岩石の下に空間を作り、魚が棲めるようにする）  （左）シンポジウムで熱心に質問する参加者 （10 月 14 日）  （右）里川の耕し  （左）当初 10 月 22 日実施の予定であったが、台風襲来のため、延期。12 月 1 日に実施した。 都幾川・嵐山町にて川起こし整備の様子		
活動の成果	魚復活を目的とするシンポジウム、および魚増殖のための河川整備を実施した。今回の参加者は河川活動を実践しているスタッフや指導者に呼びかけ、参加してもらった。今後魚を増やす活動を展開するのに、今回のシンポジウムは多大の貢献となった。シンポジウムの参加者は 35 名で、多くは市民団体の代表やスタッフであった。午前・午後と 1 日を通して開催されたが、午前・午後ともに熱心な質問が相次ぎ検討会は大変な盛り上がりとなった。12 月 1 日の川起こし整備には稲田講師をお呼びして実施した。 9 月 17 日にウグイの産卵床整備訓練の実施を予定していたが、雨のため中止となった。		
今後の改善点	河川の魚の生態、川の構造（瀬と淵があり、曲線河川が魚の生態に適している、適当に上流から岩石が流下するなど）を学び、対策を講じていくことが必要である。 今後は都幾川の構造をマップ化し、瀬や淵、岩石の上流からの流下、カワウ対策、外来種のコクチバス対策を総合的に調べ、検討・実践していく方針である。		
最終助成決定額	121,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑧

団体名	NP0 法人荒川流域ネットワーク	実施日	平成 29 年 5 月～平成 29 年 11 月
代表者	鈴木 勝行		
活動場所	・入間川、赤間川（入間川第二用水） ・東大谷川、西大谷川、飯盛川 ・高麗川、葛川 ・小畦川、南小畔側、北小畦川、霞川 ・都幾川、槻川、瀬戸川、唐沢川、谷川、一ト市川、雀川、田黒川		
タイトル	入間川水系一斉水質調査 Map 作成		
活動目的	荒川水系に清流を蘇らせることを目標に、多くの方々に身近な河川に関心を持ってもらうため、当会設立から水質調査を行ってきた。水質調査の結果をマップ化して、荒川流域の環境団体、行政各機関、学校等に広く配布し河川環境改善の啓発を行う。		
活動内容	平成 29 年度に作成したソフトを活用してマップを作成し、一斉水質調査参加団体及び関連団体に早期にマップを配布し、11 月 8 日に「振り返りの会」を行い、一斉水質調査の目的及び継続の意義を共有した。さらに大勢の人に関心をもってもらうため Google Map を活用してインターネット上（HP、Facebook）で公開した。 また本年は、特にアユの遡上調査を実施している入間川水系査に重点をおいた。河川環境の実態把握し、水質改善の手立てを検討していく。    （左）一斉水質調査についての説明会及び水質調査の配布 （中）都幾川上流、都幾川・槻川合流地点の水質調査の様子 （右）鶴ヶ島の自然を守る会一、鶴ヶ島市富士見市民センターにて採水した河川水の水質測定の様子		
活動の成果	参加団体は地域の河川の経年変化を把握し活動につなげている。水質調査結果をインターネット上で公開したので、関係者は例年に比べてかなり早い時期に結果を把握することができた。広く広報することで関心を寄せる人が増えることが期待でき、新たに次年度の参加申し出があった。 昨年度開発したマップ作成ソフトを活用し、マップ作成の効率化が図れた。 2017 年度荒川流域一斉水質調査マップ 2017 は、マップ作成ソフトで作成すると PDF データになる。これを JPG に変換し編集長というソフトで構成後、さらに PDF データに仕上げた。各団体から提出された水質調査地点について現地調査により確認するよう、また、同時に水質調査地点について写真撮影をして Google Map に掲載するよう改善した。		
今後の改善点	各団体より提出された水質調査結果のデータ整理にかなり苦勞した。また、マップ作成ソフトを使いこなすことに苦勞した。		
最終助成決定額	141,930 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑨

団体名	NP0 法人はとやま環境フォーラム	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	鳩山町（唐沢川、鳩川、越辺川）
タイトル	鳩山における自然環境調査保全活動		
活動目的	活動地域の鳩山町は、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化している一方で、鳩山町北部地区などには生物多様性に富んだ、まとまった面積の里地里山が残っている。それら里山の環境の経年変化を多面的に継続監視すること、調査データを基に自然を生かした地域づくりおよび生物多様性地域戦略づくりを行うこと、里地里山の大切さの啓発活動を行うことを目的に活動している。		
活動内容	（左）唐沢川でホトケドジョウ等水生生物調査活動（8 月 6 日） （中）唐沢川での残留農薬検査の採水（8 月 6 日） （右）エコ図書館運営活動 かわせみハウス常設「はとやまエコ図書館」蔵書の一部のみ開架   		
活動の成果	（１）今年度は採水直近に散布されたメタラキシル、ホセチル、シクロスルファミロンの 3 成分の残留分析を行った。いずれも検出限界以下の「0. 001 mg／リットル未満」だったが、散布時期不明のフルトラニルを含む 2 成分で微量ながら流失が認められた。これらの分析データをもとに、鳩山町環境保全条例の改訂に向けた提案の基礎データとする。 （２）ニュータウン内のかわせみハウスに設置の「はとやまエコ図書館」の運営。これまで使用してきた鳩山町多世代活動交流センター内のチャレンジスペースが耐震工事に伴い来年度から使用できなくなるため、運営の他、蔵書の移動の準備等を行った。 （３）絶滅危惧種のホトケドジョウの生息が今年度も確認された。生息数に大きな変化はなかったが、同じく絶滅危惧種のトウキョウサンショウウオと共に、アライグマによる食害の心配は払拭されていない。これまでの調査データはアライグマの生態系への影響と駆除対策の必要性を訴える事例として活用した。		
今後の改善点	2 か所に分かれていた蔵書を、鳩山町多世代活動交流センターからすべてをかわせみハウスに移転するため、エコ図書館のPRを行い「里山の自然と文化資料館」としての役割の充実を図りたい。		
最終助成決定額	135,800円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑩

団体名	鶴ヶ島市立藤小学校	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	向田 正人	活動場所	鶴ヶ島市（大谷川、藤沢市民の森）
タイトル	藤金市民の森にホタルを呼ぼう		
活動目的	身近な地域の自然や河川の自然環境を守るため、自然を守るための活動（清掃活動や広報活動）を行い、児童たちが人と自然との関わり大切さを知り、地域の自然を大切にしていける心育てる。また、「藤金市民の森」を管理している市役所、NP0 法人の方々からお話を聞き、ゴミ拾いや清掃活動をすることで、きれいな藤金市民の森を宣伝し市民の憩いの場として活用してもらう。		
活動内容	児童たちは、清掃活動や広報活動、川遊び・魚取り・木を使っの遊びなどを通して自然の良さを学び、11 月に調査・報告発表会を行った。NP0 法人里山サポートクラブや鶴ヶ島市役所都市整備部の協力を得て、藤金市民の森の歴史や環境保全についての講義を受けた。 （左）活動場所である藤沢市民の森の入口。NP0 法人「里山サポートクラブ」や市役所の方々からお話を聞き、自然や昆虫、水性生物の観察をして学習活動の導入とした。 （中）「藤金市民の森」の中を流れる大谷川の清掃大作戦の様子。ホタルを呼ぶためにはきれいな川と環境が絶対条件ということを知り、子供たち自身が考えて「大谷川清掃大作戦」を実施した。この時のゴミは学校に持ち帰り分別して処分した。 （右）11 月 1 日、学習のまとめとして、NP0 法人「里山サポートクラブ」や市役所の方々、保護者、地域の方々を招いての学習発表会を行った。3 年生がグループに分かれて発表を行い、写真のグループはホタルの種類について発表している。		
			
活動の成果	清掃活動などでは子供たちは真剣に取り組み、発表会ではどのグループも真剣に発表し、参加者からお褒めの言葉をいただいた。 調査・報告発表会の宣伝を事前に行い、保護者だけでなく地域の方々も招き、たくさんの参加者に来ていただいた。 保護者のみならず、地域の方々に声がけし、参加していただけたことが良かった。		
今後の改善点	改善点としては、教育課程との関連で通年を通した活動ができないことと、活動が第 3 学年に集中してしまうこと。 成果としては、児童の興味関心がとても高いのでこれからも取り組んでいきたい。		
最終助成決定額	150,000 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑪

団体名	川島町網打連合会	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	加藤 晃	活動場所	川越市、川島町（入間川、越辺川）
タイトル	投網打ち・船乗り体験会		
活動目的	入間川に舟を浮かべて子供たちが舟乗りを体験できる催しを実施しており、各回 100 名以上の参加者を乗船させてきた。川島町が新造した和船を制作した那珂川水系最後の船大工である峰岸さんをご高齢で引退なさるため、船造りの技術を継承することが急務である。参加者には、乗船している船について紹介し、船に関する理解をより深め、投網・地引網体験会では魚を捕獲し、入間川の魚道整備前後の魚の分布の変化を示すデータを得るとともに、特に若い世代の参加者に魚や河川、投網への関心を喚起することを目指す。また、多くの方々の和船・投網文化に関する理解を深めることを目的とする。		
活動内容	  毎年 5 月に川島町内で行われている「ちびっこフェスティバル」会場での船乗り体験・投網打ち体験（陸地）に続き、6 月に越辺川で「船乗り体験会」を実施した。 8・9 月に特に若い世代の人々の投網と魚への関心・意欲を喚起することを目指した、河川の浅瀬から投網を打つ経験ができる「投網・地引網体験会」を計画したが、台風等による水位の上昇により 8 月と 9 月の「投網・地引網体験会」は今年も残念ながら中止となった。   （左上）船乗り体験受付／（左下）船乗り体験／（右）和船作製の様子		
活動の成果	5 月に川島町で行われた「ちびっこフェスティバル」の船乗り体験コーナーで当会のホームページの宣伝を行い、多くの人に活動を知ってもらえるよう努め、6 月に行われた「船乗り体験会」ではカワゴエ・マス・メディアのサイトで宣伝をしていただいた。 川島町所有の和船に加え、新しく制作した船を使用した初の体験会となり、来場者には大変好評であった。 8 月・9 月に計画していた「投網・地引網体験会」が、台風等による水位の上昇により中止となった。		
今後の改善点	経費削減のため広報をカワゴエ・マス・メディアで宣伝し、町の広報に掲載しなかった結果、昨年より参加者が少なかった。今後は町の広報で宣伝することを徹底したい。 台風で中止となった「投網・地引網体験会」は、結果として 2 年連続で実施できなかった。このことを踏まえ、次年度は船乗り体験会のさらなる充実に力をいれて活動展開していきたい。		
最終助成決定額	139,754 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑫

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	前原 辰信	活動場所	狭山市（入間川）
タイトル	ゆりの木学習：入間川探検隊		
活動目的	本校では総合学習「ゆりの木学習」等で、隣接する入間川について調査や体験学習を行い、地元の川へ愛着を持つ児童の育成を目指している。		
活動内容	川に生息する動植物の観察や環境調査、川の清掃活動、地引網やカヌー体験などを地域の指導者だけでなく保護者の協力を得て行った。 天候に恵まれ全日程を実施することができた。 (1) 入間川の自然観察：理科や総合の学習では、各学年の学習内容に合わせて入間川河川敷に出かけ、草花の様子、川に生息する生きものの観察や季節探しを行った。 (2) カヌー体験：5 年生の「ゆりの木学習」では、狭山市環境ネットワーク等の協力を得て、普段できないカヌー体験をした。 (3) 地引網体験：5 年生は漁業組合等の協力を得て、かつて盛んに行われていた「地引網」についての歴史や方法の説明を受け実際に体験した。 (4) 入間川水族館：昨年度から実施。自然観察の時に捕獲した魚などを学校の職員室前に設置した「入間川水族館」で飼育している。入間川に生息する魚がいつでも観察できる。 (5) 入間川の水質検査等：5 年生の総合的な学習や環境委員会では、入間川の水質検査や地域清掃を行っている。各学年とも観察会の帰りにはゴミを拾って帰ることになっている。 (6) 学習発表会：各学年とも、1 年間学習してきた内容を保護者や地域の方々を招待して発表した。入間川や地域環境に関する発表がある。    (左) 地引網体験：大きなフナを手づかみして大喜びの児童 (中) 職員室前の「入間川水族館」と児童・武州入間川プロジェクトの旗 (右) 学習発表会に向け、テーマごとに指導者の方に質問やまとめ方を教わった		
活動の成果	学校・家庭・地域が一体となって、日常生活では体験できない地域ならではの貴重な体験学習を行うことができた。 例年、学習内容が多く天候に左右され実施できない活動があったが、今年度は数回の延期の後、全て実施することができた。		
今後の改善点	予算的にも厳しいものもあり、計画を見直し無理のない範囲で継続していきたい。		
最終助成決定額	150,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑬

団体名	埼玉県立いずみ高等学校	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	栗藤 義明	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	三ツ又沼ビオトープの保全活動		
活動目的	いずみ高校・生物サイエンス科の 2 年生で行う「生態学基礎」の授業において、「荒川上流河川事務所」や「日本生態系協会」、「地域サポーター」の方々と協力し、三ツ又沼ビオトープに侵入した外来種の駆除を中心とした自然環境保全活動の実施を目的とする。		
活動内容	三ツ又沼ビオトープでは外来草本植物の繁茂が問題となっており、三ツ又沼ビオトープをフィールドに、授業の一環としてビオトープ管理実習にてアレチウリやセイタカアワダチソウなどの外来草本植物の駆除や、繁茂しすぎた竹林やクワの管理など、ビオトープの環境を適切に保全するための実習を行った。 三ツ又沼の植生を回復するため、必要な草本植物の種子採種や採取した種子の発芽試験にも取り組んでいる。  (左) 三ツ又沼でビオトープ管理の説明を受ける生徒達  (右) 外来の草本植物（セイタカアワダチソウ・アレチウリ等）の駆除作業：駆除した植物の入った大量のゴミ袋  (左) 冬のビオトープにて繁茂した竹の伐採実習		
活動の成果	日本生態協会や荒川市民環境サポーターの方々の協力を得ることにより、より実践的なビオトープ管理実習が体験でき、実習を通して環境保全活動の大変さや、日本の在来植生を守る活動の重要性が実習を通して理解できるようになった。 特に、1 回目と最後の総括発表会では、日本生態系協会やボランティアの方が来校し講演や活動報告をしていただいた。現地での実習と講演会を組み合わせることで、生徒は意欲的にビオトープ管理実習に取り組んでいる。		
今後の改善点	今後は 2 年生の実習だけでなく、3 年生の課題研究（自分で研究テーマを見つけ実験を行う授業）とも連携して、ビオトープの保全管理活動に取り組むたいと考えている。 在来植物の実験結果について、ビオトープを管理しているボランティアの方などと情報を共有し、さらに発芽率向上のための実験へとつなげていきたい。		
最終助成決定額	133,920 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑭

団体名	比企郡川島町立出丸小学校	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 2 月
代表者	柳澤 睦夫	活動場所	川島町（三ツ又沼ビオトープ）
タイトル	「守ろう川島の緑と水（環境を守る）」		
活動目的	昔の荒川、入間川の自然が今も残る三ツ又沼ビオトープにおいて、児童が育てたハンノキや在来植物（キンミズヒキ、イヌタデ、チカラシバ）を植え自然を再生することや、総合的な学習の時間に「守ろう川島の緑と水（環境を守る）」で学んだことを発表会で発表し、より多くの人に伝え広めることを目標としている。		
活動内容	5 年生の総合的な学習の時間（わくわくタイム）の「川島の緑と水（環境を守る）」の学習にて「荒川の自然再生」をテーマに取り組んだ。 出丸小学校（児童数 77 名）は平成 29 年度末で閉校を迎え、平成 30 年度は町内の三保谷小学校（73 名）（平成 29 年度末閉校）と統合して、「川島町立つばさ南小学校（135 名）」となるため、出丸小学校として最後の活動となった。 荒川市民環境サポーターの皆さんの支援をいただきながら、三ツ又沼ビオトープにて動植物の生態系の観察や、ハンノキ（ミドリシジミの繁殖樹）の苗木の植栽と種の採集などの活動を行い、10 月に学習発表展示と 2 月にハンノキ学習（わくわく）発表会で学習の成果を発表した。    （左）「三ツ又沼ビオトープを知ろう」の現地学習で植物の名前や虫の名前を教わった （中）在来植物と外来植物について学び、外来植物を駆除する活動も行った （右）29 年度で最後になる、荒川ハンノキプロジェクトの 17 年間の軌跡と成果報告会		
活動の成果	現地や教室で、荒川河川事務所・日本生態系協会・あらかわ市民環境サポーターさんの指導を受け、資料を調べることで、児童の環境保護に関する知識・理解は体験に基づく確かなものになっている。また、自然再生の本格的な活動を体験し、環境保護意識を高めることができた。 三ツ又沼ビオトープ周辺で採集したハンノキの種子を学校のプランターに植え、芽が出たものを一本一本を鉢に植え替えて 2 年間育ててきたが、今年度は苗木が育たなかった。ハンノキの植え戻しをすることはできなかったが、三ツ又沼ビオトープの外来植物を取り除く活動をした。		
今後の改善点	今年度は苗木の植え戻しができなかった。発芽率の低さや発芽前後はもちろんであるが、普段からの水分管理等を行う必要を感じている。 来年度からは「川島町立つばさ南小学校」として、5 年生の総合的な学習の時間の「守ろう川島の緑と自然（環境を守る）」を続けていきたい。		
最終助成決定額	93,200 円		

※ 活動完了報告書を元に作成

平成 29 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況⑮

団体名	かわごえ里山イニシアチブ	実施日	平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
代表者	増田 純一	活動場所	川越市（入間川、小畔川、越辺川）
タイトル	初雁舞う里山、稲作による人・街・環境作り		
活動目的	自然と調和し、人と生きものにやさしい田んぼ活動を行い、誰もが安心して安全に暮らせるよう、自然と人間が共生できる環境豊かな里山づくりを推奨し普及していくことを目的とする。農家・非農家が連携し、農薬や化学肥料を使わない環境に優しいお米作りで、川越市の鳥である雁や、コウノトリが舞い戻ることのできるような環境豊かな里山をつくることを目指している。		
活動内容	参加者を募り、農家と消費者が一緒になって、田植えから稲刈り体験を通して稲作を行った。ネオニコチノイド系農薬や過度な化学肥料を田んぼから河川に流さない農法で、豊かな田んぼの価値を体験しながら普及・啓発活動を行った。 また、生物多様性有機農法による研修会や生きもの調査などの環境調査や環境教育を行った。    (左)5 月 10 日「食べる生きものの調査」：落合橋近辺の入間川堤防での植物調査と野草の最終を行った。 (中)6 月 10 日「第三回有機稲作ポイント研修」：田植え後に除草剤や農薬を使わない稲管理の研修を行った。 (右)6 月 24 日「田んぼの生きもの調査」：河川に農薬や化学肥料を流さない環境に優しい農法で田んぼの多様性を学んだ。		
活動の成果	子どもを持つお母さん方の参加者が増えた。掘りさらいや、かかし祭りなど地域のイベントに参加することで地域に根付いた活動を行った結果、活動への認知度が上がり、地域の農家の理解者が増えてきている。賛同してくれた農家さんによって、無農薬・無化学肥料田んぼが 4 反増えることになった。 この田んぼをフィールドにした活動全体の「生きもの育む田んぼプロジェクト」は国連生物多様性の推奨する連携事業として認定された（第 9 弾の認定連携事業）。今年度は「生きものを育む田んぼプロジェクト 2017」として活動した。		
今後の改善点	あらゆるチャンネルで広報誌、さらに普及・啓発活動を図る。特にホームページの更新が課題である。		
最終助成決定額	100,000円		

※ 活動完了報告書を元に作成